産業人クラブだより ―かけはし―

産業人烈伝

〝栄枯盛衰、業界に生きる〟

桜ゴルフ・佐川八重子社長　①

当社はゴルフ会員権販売のパイオニアとして自負しています。「草分けとしての使命を」―。私がほほ笑みながら語りかけるキャッチフレーズをゴルファーならば一度は目にしたことがあるはずだと思います。

私どもは1970年の第1次ゴルフブームの幕開けとともにゴルフ会員権の桜ゴルフを創業、今年41周年を迎えました。会員権ビジネスは景気の影響に左右される業種ですが、栄枯盛衰の激しい経済社会の中、生き延びてこられたのは、単にモノを売るのではなく、顧客サイドに立ったコンサルティングを重視した経営方針が評価されたのだと思っています。また、お客さまに身近な存在として感じていただけるよう、家族的経営を心がけてきたことも大きいのではないかと思います。

私は千葉から銚子に向かう中ほどに位置する松尾町（現山武市）という小さな田舎町で生まれました。実家は父が工務店、母が商店を営み、8人兄弟の末っ子として育ちました。中高生時代はファッションに興味を持ち、高校卒業後はデザイナーを夢見て文化服装学院に進みました。

ところが2年目のある日、ゴルフ会員権業者の「秘書募集」の求人広告が目にとまり応募してしまいました。実は高校時代、叔父の接待の手伝いで行ったゴルフ場で華やかな別世界に衝撃を受けたのです。豪華な施設の中でゴルフや食事を楽しむ特権階級の人たちの社交界でした。自分もこんな世界に入ることができたらと漠然と思い抱いていました。

たまたま見つけた求人広告は、忘れていた私の記憶をよみがえらせました。ちょうどその頃、デザイナーになってファッションの世界で生きていくことに不安を感じていた時でしたので、「これこそが私の仕事だ」と飛びつき、何のためらいもなく東洋ゴルフという会員権業者に入社しました。当時、ゴルフ会員権を扱う会社は数社しかない時代でした。

しかし、社長秘書とは名ばかりで営業先の下調べや営業の資料を届けたりする営業アシスタント。今考えても当初の秘書の2年の経験が私に与えたものは大きかったと思います。その後、同業他社で3年の営業経験を積んだ後、70年に桜ゴルフを設立しました。

（東京都中央区銀座5の9の1）

（全4回）

桜ゴルフを設立する前、他社に勤務していた頃の佐川社長（60年代半ば）

トップインタビュー

栄来月、中国工場が稼働 クラブとともに飛躍の年に

栃木産業人クラブ会長（村田発条社長）

村田　一郎氏に聞く

栃木産業人クラブの会長に村田発条（宇都宮市、028・662・3811）の村田一郎社長が就任した。村田氏は副会長として長年クラブの発展を支えてきた。今後は会長として会員増強を中心にクラブ活動強化に向けた一層の手腕が期待される。自動車用バネで国内有数の同社にとって、2011年は中国工場も稼働するなど会社の大きな節目の年。今後の意気込みを聞いた。

（栃木・杉浦武士）

◇

―藤井昌一前会長からバトンを受け継ぎ、満を持しての就任となりました。

「栃木産業人クラブは全国の産業人クラブで最初に創設され、約50年の歴史を持つ。私は若い時から参加してきたが、当時としては異業種交流のはしりの存在であり、有意義な経験をした。歴代会長をそうそうたる方々が務めているので、クラブの名に恥じないように責務を全うしたい」

―就任のあいさつで、会員増強を強調しました。

「藤井昌一前会長から『モノづくり企業として引っ張ってくれ』と激励を受けてバトンタッチされた。栃木県にはモノづくりの優良企業がたくさんあるが、会員になっていない企業も多い。やはりモノづくりを中心とした組織なので、当社のネットワークも活用して、広く県内の製造業に声をかけていきたい」

―組織の交流の活性化も強調しています。

「著名人を招いた講演会や勉強会などの交流を充実させて、会員に今まで以上にメリットが出る活動に取り組みたい。また、産業人クラブは全国組織でもあるため、他の都府県のクラブとの交流なども提案していきたい」

―今年は、村田発条の中国工場がいよいよ稼働します。本業でも重要な年です。

「10月の稼働を予定している。現在、機械を導入しているところで、現地採用も始めている。中国は今年の自動車の販売台数は2000万台になると言われている。現地の豊富な需要を取り込んでいく」

―航空機分野も好調のようです。

「グループ会社で航空機部品の加工を手がけるエーシーエム栃木（栃木県さくら市）では、塩谷町の工場でフル稼働状態が続いている。米ボーイングでは『777』『737』、そして次世代旅客機『787』などを中心にこれからさらに忙しくなるだろう。今年は栃木産業人クラブの活動と合わせて飛躍の年になるよう、まい進したい」

むらた・いちろう　68年（昭43）米ニューヨーク大商学部中退。71年村田発条入社、71年取締役、85年常務、88年専務、90年社長。07年から栃木産業人クラブ副会長。栃木県出身、64歳。

トピックス

東京　栄鋳造所「浪江焼きそば」B1優勝へ

栄鋳造所（東京都八王子市、鈴木隆史社長、042・651・9790）は、福島県の浪江町商工会青年部の町おこし活動を支援している。また八王子市と長野県岡谷市が開いたビジネスマッチングに参加し、広域連携による事業継続計画（BCP）対策を検討した。異業種連携を被災者支援と危機管理の両方に生かしている。

鈴木社長は八王子市の若手経営者が集まる異業種連携組織「HFA（八王子・フューチャー・アソシエーション）」の会長を務める。HFAのメンバーを中心に同青年部が立ち上げた任意団体「浪江焼麺太国」を支援し、ご当地グルメ「浪江焼きそば」でB1グランプリでの優勝を目指す。

グランプリの順位はイベント参加者の投票で決まり、入賞ラインは一日1万食。青年部だけではマンパワーと焼きそばを焼く鉄板台が足りず、現状は一日3000食が限界だった。八王子の企業が人手を補い、8台の鉄板台を製作し、つくる量を7倍に増やす。製作資金は11月の本番までに各地のイベントに屋台を出して稼ぐ予定だ。またHFAのメンバーを中心に岡谷市の企業との連携事業に参加し、緊急時の連携先を探した。

「同業の鋳造業はいなかったが、熱い経営者と出会えた」（鈴木社長）と一定の手応えがあった。支援と危機対応の輪を産業人クラブにも広げていく考えだ。

焼きそばをつくる鈴木社長

小さくても本物

岐阜　理想精密　難削材加工で技術磨く

理想精密（岐阜県輪之内町、中村強志社長、0584・69・5445）はチタンやモリブデン、炭素繊維強化プラスチック（CFRP）などの難削材加工を得意とする従業員12人の会社だ。少量加工を専門にする同社には、他社では加工困難と言われた図面や材料が持ち込まれることも少なくない。

中村社長は兵庫県出身。大学で化学工学を学び、25歳で結婚を機に岐阜県へ移住。親戚が経営する金属加工会社で機械加工を一から学んだ後、「単品しかやらない加工屋になる」と決意して23年前に独立した。どんな依頼にも絶対に「できない」と言わないのが信条で、難しい加工をやり切るたびに技術を高め、仕事の幅を広げてきた。

同社は3、4年前からCFRPに注目。将来の用途拡大を見込んで切削加工技術を磨き続けている。当初は独特の積層剥離やバリに悩まされたが、今では穴加工やトリム加工、3次元加工（写真）も難なくこなす。滑らかな切削面と高い寸法精度を出すコツは「回転と送りの絶妙なポイントをつかむこと」という。

「難削材加工はまだコストが高い。低コストで技術を提供できるようになるのが、本当の意味での技術力向上だ」と中村社長。最近では海外への情報発信も積極的で、最近立ち上げた自社サイトの中国語版を通して、中国からの問い合わせが舞い込んでいるという。

9―10月の予定

【9　月】

◇**3日（土）埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会**「第6回ビジ研親睦ゴルフ大会」（埼玉県上尾市、大宮ゴルフコース）

◇**12日（月）大阪産業人クラブ**「カタログとWeb制作のポイント」（大阪市中央区、日刊工業新聞社大阪支社10階）

◇**14日（水）埼玉産業人クラブ**「分科会」講師：ホッカイエムアイシー社長・阿部純氏（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局）

◇**14日（水）新潟産業人クラブ**「2011年度定時総会・記念講演会」　講演：「東日本大震災を見てきた男の眼」　講師：吉田賢一郎自衛隊新潟地方協力本部長（新潟市中央区、新潟グランドホテル）

◇**16日（金）千葉産業人クラブ**セミナー「知財活用と経営革新について」（千葉市美浜区、ホテル　ザ・マンハッタン）

◇**16日（金）―17日（土）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会**「9月例会親睦ゴルフ大会および一泊懇親会」（栃木県那須町、塩原カントリークラブ、松川屋那須高原ホテル）

◇**20日（火）―28日（水）中国四国産業人クラブ**「クロアチア9日間製造業・観光産業視察ツアー」（クロアチア・ボスニア）

◇**21日（水）東京産業人クラブ・東京産学交流会**（サザンクロス）9月定例会「イノベーティブな発想を生む双方向型セミナー『発電会議』」　講師：enmono社長・三木康司氏（東京都大田区、三井ガーデンホテル蒲田「星海の間」）

◇**22日（木）埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会**「じっくり訪問シリーズ第15弾」（東京都渋谷区、東京中小企業投資育成）

◇**22日（木）神奈川産業人クラブ**「工場見学会」（静岡県富士宮市、アマダ富士宮事業所）

◇**26日（月）埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会**「第22期通常総会」（埼玉県川越市、氷川会館）

◇**28日（水）―29日（木）埼玉産業人クラブ**「産友会」（岐阜市、長谷川温泉「十八楼」）

【10　月】

◇**4日（火）大阪産業人クラブ**「第71回ゴルフ大会」（兵庫県川西市、山の原ゴルフクラブ）

◇**7日（金）―9日（日）埼玉、東京、千葉、茨城の各産業人クラブ**「4都県産業人クラブ合同　若手・地域間交流会　in　札幌」（札幌市内、石屋製菓など見学）

◇**12日（水）埼玉産業人クラブ**「分科会」講師：東芝首都圏支社支店長・田尻澄夫氏（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局）

◇**17日（月）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会**「役員会」（さいたま市浦和区、彩懐石うらわ高砂）

◇**18日（火）東京産業人クラブ**「東京都立産業技術研究センター見学会」（東京都江東区）

◇**18日（火）多摩産業人クラブ**「工場見学&懇親会」（東京都東大和市ほか、トライヤーン、東成エレクトロビーム、塩野製作所）

◇**19日（水）埼玉産業人クラブ**特別講演「企業の危機管理を考えるセミナー」　講師：技術士・黒沢岳夫氏、経営士・豊田賢治氏、新建新聞社リスク対策・COM編集長・中沢幸介氏（さいたま市浦和区、浦和コミュニティセンター）

◇**19日（水）―20日（木）大阪、滋賀、中国四国の各産業人クラブ**見学・交流会「びわ湖環境ビジネスメッセと江・浅井3姉妹博覧会」（滋賀県長浜市、滋賀県立長浜ドーム）

◇**20日（木）―21日（金）福島、いわき、新潟、宮城、東京など各産業人クラブ**「福島モノづくりツアー」（福島市内、福島製作所、北芝電機、富士通アイソテック見学）

◇**21日（金）―22日（土）埼玉産業人クラブ・経営研究部会**「東日本大震災被災地の視察会」（宮城県多賀城市）

◇**26日（水）東京産業人クラブ・東京産学交流会（サザンクロス）**10月定例会「ランチェスター戦略　実践編」講師：戦国マーケティング社長・福永雅文氏（東京都大田区、三井ガーデンホテル蒲田「星海」の間）

◇**27日（木）埼玉産業人クラブ**「第33回埼玉県産業振興懇談会」第1部：埼玉県幹部を囲む意見交換会、第2部：講演会　講師：キヤノン電子社長・酒巻久氏、懇親会（さいたま市中央区、ラフレさいたま）

清水市長と懇親会　埼玉産業人クラブ

埼玉産業人クラブ（増田文治会長＝マスダック社長）は8月3日、さいたま市浦和区の彩懐石うらわ高砂で、清水勇人さいたま市長を囲む懇親会（写真）を開いた。さいたま市内に事業所を置く会員企業などから22人が参加した。

清水市長は以前から進めている次世代自動車関連施策に加え、スポーツコミッションを設立し、スポーツで経済を活性化させる独自の新施策を紹介。「ぜひ参加企業の皆さまから貴重な意見をうかがい、役立てていきたい」と投げかけた。

清水市長とクラブ会員の懇親会は2010年に続き2回目。終始和やかな雰囲気の中で食事を楽しみながら、景況感や経済動向について個別に意見を交わし、交流を深めた。

東電のメガソーラー見学会に20人が参加　神奈川産業人クラブ

神奈川産業人クラブ（天田満明会長＝アマダ相談役）は8月26日、「メガソーラー発電所&キリンビール横浜工場見学会」を実施した。会員20人が参加し、大規模太陽光発電の施設（写真）とビールの製造工程を見学。見学会の後は会員同士がビアガーデンで懇親を深めた。

見学した太陽光発電施設は8月に運転を始めた東京電力浮島太陽光発電所（川崎市川崎区）。同発電所は出力7000キロワット。約3万8000枚のパネルを前に参加者は、太陽光発電が次世代エネルギーとして欠かせない存在になっていることを実感した。

ビール工場ではキリンビールの歴史と細心のビール製造ラインを見学。高速搬送システムなどを解説する説明員の話に聞き入った。

若手交流会に経営者30人参加　東京、埼玉、千葉の産業人クラブ

東京、埼玉、千葉の3産業人クラブが合同で「首都圏若手産業人クラブ合同地域間交流会」を8月23日に、東京都台東区のうなぎ料理店「伊豆栄梅川亭」で開催した。三つのクラブから若手経営者ら約30人が参加した。

交流会では参加者同士が、各企業の経営状況や各都県の経済環境などについて意見を交換。さらに、伊豆栄梅川亭のうなぎに舌鼓を打った。

中締めではデサン（さいたま市北区）の藤池一誠専務（写真中央）があいさつし、「震災など未曽有の出来事で悪化している経済環境を乗り越えるには、我々が元気を出していかなければならない」と力強く訴えた。

大震災・原発テーマ　産学連携セミ開く　NITEC埼玉産学交流会

埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会（長谷川勉会長＝長谷川鉄工所社長）は8月5日、埼玉県宮代町の日本工業大学宮代キャンパスで同大学や県内金融機関などと共同で産学連携セミナーを開いた。会員や地域の企業関係者ら約170人が参加した。

今回は「東日本大震災後の原子力発電所」がテーマ。講師には、過去に北陸電力志賀原子力発電所の設計・建設に携わった日本原子力技術協会（東京都港区）の山崎達広氏を招いた。山崎氏はまず、東京電力福島第一原子力発電所の事故について解説（写真）。同原発が津波の力に耐えられなかったことについて「技術者としてショックだった」と述べた。このほか、沸騰水型炉と加圧水型炉の違いや、ストレステストなどについても説明した。

同大学の柳沢章学長は「今は、あらためて原子力について学ぶべき時。この講演を有意義なものにしてほしい」と参加者に呼びかけた。

産業人クラブ入会のご案内

～ビジネスチャンスを産む異業種交流・研修活動～

日本産業人クラブ連合会
〒103-8548　東京都中央区日本橋小網町14-1
住生日本橋小網町ビル
日刊工業新聞社内
TEL.03-5644-7284　FAX.03-5644-7249

ホームページで全国のクラブの活動を紹介しています。
http://www.sangyojin.com

日刊工業新聞に月1回（予定は第1金曜日）に1ページの産業人クラブ面「かけはし」を掲載しています。過去の「かけはし」もご覧になれます。

入会のご案内

産業人クラブ（旧日本工業会）は昭和30年11月に発足、以来常に時代に即応した組織に軌道修正しながら、いつの時代でも中堅・中小企業経営者が一番必要とする問題点をとらえ、講演会、研究会、工場見学会、国際交流などを実施するとともに、そのときどきの情報を提供して会員の皆様の経営に役立つような事業を展開して参りました。

ご承知のとおり、わが国産業界は、めまぐるしく変化する国際社会のなかにあって、その動向が世界各国から注目されております。とりわけ最近は、経済のグローバル化、情報化の進展などにともなって、産業構造の変化もはげしく、的確で迅速な情報の入手が不可欠となっております。

各産業人クラブは全国にある27の産業人クラブ（会員数1750名）と、密接な連携をとりながら、先進的な活動を行っております。

こうした事業は必ず皆様の経営にお役に立つものと思われます。

皆様方のご入会を心よりお待ちしております。

活動のあらまし

●講演会の開催
産業界はじめ各界で活躍している著名人を招き、政治、経済、外交、産業、科学技術など、その時々の問題をとらえて企業経営に役立つ講演会を開催しています。

●経営研究会の開催
会員相互のコミュニケーション・異業種間交流に重点をおき、経営、技術、商品開発などを中心に企業経営者の相互開発の場をつくります。また、会員による意見発表ならびに日刊工業新聞記者による産業情報を随時提供し、会員の参考に供するほか、懇親会による交流を深めています。

●工場見学会の開催
各種の試験研究機関ならびに新技術、生産設備の進んだ先端的な工場を対象に、企業経営に役立つ見学会を実施しています。

●分科会活動の実施
会員間のキメ細かな情報交換・交流を深めるため分科会を組織し、積極的な事業展開を行っています。

●ゴルフ大会の開催
会員相互の親睦と健康増進をはかるため、各地域の名門コースで開催しています。